

## 2023年度

科目名称	毒性・薬理学
授業コード	BA341
英語名称	
学期	2023年度前期
単位	2.0
担当教員	山田 秀俊 (生命環境学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	ヒトの健康に有害な物質は毒、有益な物質は薬と呼ばれる。毒と薬は相反する効果を発揮する物質であるが、どちらの作用も生体との相互作用の結果起こるといふ点で共通である。本講義では、天然物質や化学物質と生体の相互作用の視点から、毒や薬が効果を発揮する原理について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	地方自治体が設置する公的研究機関にて、農林水産物の有効成分を活用した機能性食品の研究開発に従事した実務経験を活かして講義する。
到達目標	カリキュラムポリシーにおける「専門性を高め多様な生命科学の問題や課題に対処する能力を養成するために必要な専門科目」であり、ディプロマポリシーに掲げる「生命科学分野の高度で実践的な知識と理解力を身につける」ことを目標とする。 毒性学および薬理学は医療、食品、化粧品、環境など様々な専門分野に深く関わる。化学物質と生体の相互作用について理解することで、毒性学や薬理学の基礎的な知識を身につける。
計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) オリエンテーション / 概論</li> <li>2) 薬理学概論</li> <li>3) 毒性学概論</li> <li>4) 肝臓の構造と機能</li> <li>5) 肝臓に作用する薬と毒</li> <li>6) 末梢神経の構造と機能</li> <li>7) 末梢神経に作用する薬と毒</li> <li>8) 中枢神経の構造と機能</li> <li>9) 中枢神経に作用する薬と毒 (1)</li> <li>10) 中枢神経に作用する薬と毒 (2)</li> <li>11) 心臓の構造と機能 / 心臓に作用する薬と毒</li> <li>12) 血球細胞と機能 / 血球細胞に作用する薬と毒</li> <li>13) 免疫系・アレルギー・炎症</li> <li>14) 免疫系に作用する薬と毒</li> <li>15) まとめ</li> </ol>
授業の進め方	薬理学および毒性学の基本的な考え方、臓器の機能、各種臓器に作用する薬と毒について解説する。解説はスライドを使って実施し、講義開始時にスライドを配布する。
能動的な学びの実施	毎回確認テストとその解説を行い、授業回ごとに理解度の振り返りを行う。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の最後に次回講義までに予習すべき項目を提示するので、参考資料などを調べてまとめておくこと。(合計20時間程度)</li> <li>・講義スライドや確認テストと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。(合計40時間程度)</li> </ul>
教科書・参考書	<p>指定の教科書および参考書は設定しない。</p> <p>予習や復習などの自主学習には FLASH薬理学 (羊土社)、NEW薬理学 (南江堂)、トキシコロジー (朝倉書店) などの参考書籍を活用することが望ましい。</p>

## 2023年度

成績評価方法と基準	試験（60％）と提出課題（40％）で評価する。
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習課題は各講義にて解説する。</li> <li>・講義中に確認テストを実施し、講義の最後に解説する。</li> </ul>
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	ヒトの解剖生理および生物化学 を履修していることが望ましい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 zoomによるオンライン授業を実施する。 成績評価方法 対面授業と同様